

## ◆横浜市は2014年度HIV(エイズ)臨時検査を行います。

- 検査は全て**無料・匿名**です。
- 検査結果は1週間後に直接ご本人にお知らせします。電話・郵送ではお知らせしません。
- 匿名検査のため証明書は発行できません。
- 検査の詳細につきましては、各会場(実施機関)へお問い合わせください。
- 予約が必要な所は、電話等で必ず予約・確認のうえお越しください。  
予約が不要な所は、当日の受付時間内に直接会場へお越しください。
- お問い合わせ・ご予約は次の時間をお願いします。月～金 8:45～12:00、13:00～17:00

検査日/結果日	受付時間	会場	内容(定員)	最寄駅	予約	予約・問い合わせ 電話番号
12月1日(月) /12月8日(月)	9:00～ 9:30	青葉福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	田園都市線 市が尾駅	要	045-978-2438
	10:00～ 10:30	磯子福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	JR線 磯子駅	要	045-750-2445
12月2日(火) /12月9日(火)	10:00～ 14:00	金沢福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	京急線金沢文庫駅/ 京急線・シーサイドライン線 金沢八景駅	不要	045-788-7840
12月3日(水) /12月10日(水)	9:30～ 10:00	栄福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	JR線 本郷台駅	要	045-894-6964
	9:30～ 10:00	神奈川福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	JR線東神奈川駅 /東横線反町駅 /京急線仲木戸駅	要	045-411-7138
12月4日(木) /12月11日(木)	9:00～ 11:00	旭福祉保健センター	HIV(特になし)	相鉄線 鶴ヶ峰駅	要	045-954-6146
	18:00～ 19:30	横浜AIDS市民 活動センター	HIV(無制限)/ B型肝炎・クラミジア・ 梅毒(90人)	JR線/市営地下鉄 関内駅	不要	045-671-2729 (横浜市健康福祉局 健康安全課)
12月5日(金) /12月12日(金)	13:20～ 14:40	港南福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	市営地下鉄 港南中央駅	要	045-847-8438
12月10日(水) /12月17日(水)	9:30～ 10:00	神奈川福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	JR線東神奈川駅 /東横線反町駅 /京急線仲木戸駅	要	045-411-7138
12月15日(月) /12月22日(月)	10:00～ 10:30	磯子福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	JR線 磯子駅	要	045-750-2445
12月17日(水) /12月24日(水)	9:30～ 10:00	栄福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	JR線 本郷台駅	要	045-894-6964
	9:30～ 10:00	神奈川福祉保健センター	HIV・梅毒・クラミジア (特になし)	JR線東神奈川駅 /東横線反町駅 /京急線仲木戸駅	要	045-411-7138
2015年 1月22日(木) /1月29日(木)	18:00～ 19:30	横浜AIDS市民 活動センター	HIV(無制限)/ B型肝炎・クラミジア・ 梅毒(90人)	JR線/市営地下鉄 関内駅	不要	045-671-2729 (横浜市健康福祉局 健康安全課)

## ◆休館のお知らせ

臨時休館：2014年11月22日(土) 世界エイズデーイベントのため  
2014年12月4日(木)・11日(木) 臨時夜間検査のため14時で閉館  
2015年1月22日(木)・29日(木) 臨時夜間検査のため14時で閉館  
冬季休館：2014年12月28日(日)～2015年1月4日(日)  
※2014年12月30日(火)の横浜市夜間検査もお休みです。

# おーぷん

URL <http://www.yaic.gr.jp/>

発行：横浜AIDS市民活動センター  
公益財団法人横浜YMCAが横浜市から事業を受託しています。  
住所：〒231-0015 横浜市中区尾上町3丁目  
39番地尾上町ビル9F / TEL: 045-650-5421  
FAX: 045-650-5422 / E-mail: info@yaic.gr.jp  
平日：13:00～20:00/土・祝：10:00～17:00  
休館：日/火  
監修：横浜市健康福祉局

## 2014年 世界エイズデー特集 AIDS IS NOT OVER～まだ終わっていない～

くわしくは中面へ!

### イベント・講座のお知らせ

#### ① やります! 街頭キャンペーン!

#### 世界エイズデー in Yokohama 2014

日時：2014年**11月22日(土)** 11:00～16:30

会場：横浜駅東口・新都市プラザ ※横浜そごう前地下広場!

内容：クイズ大会、楽しいレッドリボン作り、バルーン、映像など(すべて無料)



他にも様々なイベントに参加します!  
くわしくはセンターHPへGO!  
URL: <http://www.yaic.gr.jp/>

#### ② よこはま国際フォーラム2015(2/7～2/8)で、講座を開催!

#### 講座「AIDS IS NOT OVER」

日時：2015年**2月7日(土)** 11:00～12:50

会場：JICA横浜 第一会議室(定員 先着40人)

JR桜木町から徒歩15分、みなとみらい線馬車道駅から徒歩8分

内容：「エイズのニュース、最近きかないけど流行は終わったの?」と思っていませんか?  
流行は世界・日本で続いています! NPO・AIDSネットワーク横浜が、流行と社会の関心の変遷や、学校出前授業や電話相談等の活動からみえる現状についてお話しします。

参加費：事前申込 1日券500円、2日券700円/当日申込可能(1日券のみ)

※高校生以下は無料。

※他にも多数の講座が開催され、自由に受講できます。

※事前申込方法・フォーラム全体に関するお問い合わせは、

『よこはま国際フォーラム2015』公式サイトでご確認ください。

URL [http://yokohama-c-forum.org/about\\_forum2014.html](http://yokohama-c-forum.org/about_forum2014.html)



## HIV・エイズと社会の動き

HIV・エイズが世界で初めて報告されてから、何が起り、日本社会の関心はどのように推移していったのでしょうか？

1981年

アメリカで原因不明の病気が公式に報告された。翌年、エイズ（AIDS）と命名され、83年には原因とされるウイルス（HIV）が発見された。

1985年

日本で初めてエイズ患者が報告された。

1989年

血液製剤を通じて感染した血友病患者らが国と製薬会社を相手取り、HIV訴訟を起こした。

流行状況や感染経路が明らかになるにつれ、世界規模の課題となってゆく

日本では対策の重要性は叫ばれていましたが、大きく報じられてはならず、一般市民にとっては「海外の病気」でした。

日本でエイズパニック

86年～87年に相次いで公表されたHIV感染報告に対して、大々的な報道が起りました。HIV・エイズは「誰もがかかりえる病気」だと人々は認識しはじめました。

一方で、当事者の人権を無視した報道が繰り返されました。病気の怖さが強調され、保健所に感染不安相談や検査問い合わせが殺到。一部医療機関で感染者・患者の診療拒否が起るなど、差別偏見が深刻化。社会は大変混乱しました。

1994年

横浜で第10回国際エイズ会議開催。128国・地域から約1万1500人が集まった。会議ではHIV感染者・エイズ患者らも勇気をもって立ち上がり、病気への理解と連携を訴えた。

1997年

新しい治療法が導入され、エイズに関連して亡くなる人が減り、コントロールできる病気となった。

現在 2014年

オーストラリアで第20回国際エイズ会議開催。テーマ「速度を上げよう」



### 「共生」をよびかける市民の行動

会議と並行して行われた市民参加イベントでも「HIV・エイズと共に生きる」が語られました。エイズで亡くなった人との思い出を記録したメモリアルキルトや、理解のシンボル・レッドリボンの展示も注目を集めました。

HIV・エイズが公式に報告されてから33年。治療はさらに進歩していますが、私たちの行動や意識はどうなったのでしょうか？

「自分は大丈夫」、「まわりに感染している人はいないんじゃない?」と、思っていないですか？

◆参考文献：「ともに生きるためのエイズ 当事者と社会が克服していくために」玉城英彦（2012.8、彩流社）、  
「エイズを知る」エイズ&ソサイエティ研究会議（2001.10、角川書店）

## 2014年 世界エイズデー特集 テーマ AIDS IS NOT OVER～まだ終わっていない～

## エイズはまだ終わっていない

12月1日は世界エイズデー。  
今年のテーマに込められた意味は何でしょうか？

### ◆HIV感染は拡大している

日本国内の2013年新規のHIV感染者とエイズ患者の報告数合計は1,590件と過去最多でした。

### ◆たくさんの人が HIVと共に生きている

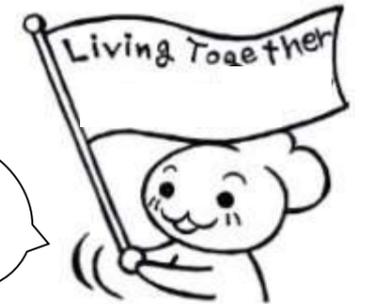
治療の進歩により、HIVに感染しても長く生きていくことが期待できるようになりました。

本人だけではなく、その恋人、家族、友人、同僚、支援・医療関係者、この記事に関心をもって読んでくれているあなたも、HIV・エイズと関わり生きているのです。

それぞれが安心して日常生活（治療、仕事、勉強、恋愛など）を送っていただけるような環境を整えていくことが大切です。

くわしくは、エイズ予防情報ネットへGO！  
→<http://api-net.jfap.or.jp/>

取り組みを  
続けよう!!



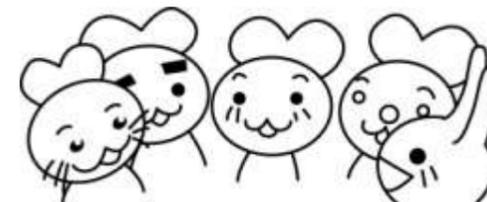
予防を続けよう

安心して暮らせる  
社会をつくろう

### 紹介『Living with HIV 身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ』

「HIV陽性者とそのパートナー、家族、友だち、職場の仲間など……24編の体験談と、HIVの基礎知識をまとめたコラムが掲載されています。」

（発行 NPO・ぷれいす東京、2013年4月）



横浜AIDS市民活動センターで無償で提供中。

読むだけでなく、学習会や研修などで朗読して感想を話し合ったりするなど、様々な活用できます。

